
オーズ最終回記念・特別記者会見

月見ココア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オーブ最終回記念・特別記者会見

【Zコード】

N2404W

【作者名】

月見ココア

【あらすじ】

最終回を見て興奮した頭で思わず書いた。後悔は、たぶんしてない。

ただ、言いたいことは俺はお前の味方だということだ。たぶんね。

pixivでも公開中

(前書き)

ちょっとだけ修正。名前「台詞」形式が初めてだったのいろいろ
う。 (8月31日)

* 注意

オーズ最終回及び夏の映画のネタバレが入っています。
まだ見ていらない人はブラウザの戻るをクリック！

また話の都合上、ほぼ台詞のみとなっています。

レポーター「はい、現場です。いまこちうでは仮面ライダー オーズ
最終回放送記念の

特別記者会見が始まっています。

あ、どうやらオーズさんが出てきたようですね」

オーズ

記者「オーズさん、今回で無事最終回を迎えることができました。一言、「」感想を…」

オーズ「……なんで……」

記者1 「は？」

オーズ？「なんで俺は活躍できなかつたんだあつーーー？？」

記者2「いや、オーズさんは約一年間主役ライダーとして世界の平和を無事に……」

オーブ????「守ったの結局タジヤドルじゃん!」

レポーター「は、タジヤドル?

ええ、はい、はい、はい、失礼しました。
いま追加情報があがつてきました。

今回、会見の場に登場したのはタトバ、
タトバフォームのオーズさんで……

タトバ「コンボッ！ コンボだから！ 亞種っぽいけど立派なコンボ！」

主役の通常フォームなんだからそれぐらいちゃんと言えろよー。」

レポーター「（ビッチにしろフォームなんじゃ？）……またまた失礼しました。

会見していただくのはオーズ・タトバコンボさん。先ほど仰っていたタジャドルというのは赤いメダルのコンボだそうです」

記者1「確かに、最後のおいしい所を持つていかれましたが、

それはやはり一年間通じてのオーズの相棒が鳥系怪人のアンクさんだったからでは？」

タトバ「いや、俺もね。タ力入ってるからアンクの兄さんには頭あがらないけどぞ。

普通、普通で、最後は通常フォームか最強フォームで終わるでしょ？」

記者3「確かに、最終決戦のときクウガはアルティメット、アギトはシャイニング。

……龍騎は最終回前に死んでたな。くつ、真司いつ……！」

記者4「……コホン、ファイズはブロスター、ブレイドもキング、響鬼は……最終回は通常じゃなかつた？」

記者2「（俺に聞くよ……）」

記者1「カブトはハイパー、電王は最強フォームかで贅否が出ます
がライナー、

キバもエンペラーでティケイド、ダブル、共に最終回は
基本フォームのままでした」

タトバ「でしょ？、

その法則に当たはめるならタジヤドール最強ってことになる
じゃん。

おかしいでしょ、そこは普通ブトティラでしょ！？」

記者1「ですがタジヤスピナーという固有武器、ギガスキャン、飛
翔能力、
スキヤーニングチャージ技の破壊力、

そして最強とされるブトティラの凍結能力と相反する炎の
力。
それらを考えると充分に最強コンボだといえなくもないの
では？」

タトバ「……よく調べてるじゃないか……まあそこは百歩譲つてそ
れでもいい」

記者2「（百歩も譲らないといけないことが？）」

タトバ「終盤、タカをアンク兄さんが回収しちまったからなれなく
なって、

やつとなれたかと思つたら紫田バージョン。でも結構すべ
姿変わつちまつて

何のためだつたのか全然わからんねえし、そのうえやつと最
終回にや、

800年前の王が使った最初のメダル使って
会長さんから『本当のオーズ』とかいわれて、
予告でもめっちゃすごそうな存在みたいにされてたのに、
ふたを開けてみたら何だよ、プロティラやタジヤドルの前
座じゃねえか！』

記者1「けど完全体となつたウヴァさんを圧倒していたじゃないですか。

バースの援護やメダガブリュー、紫メダルの力なしに追い
詰めたのは初では？」

タトバ「ううう、あんただけだよ。俺のこと評価してくれてんの。
知ってるかピクシブ百科事典だとな、俺の項目
『やくたたず』って書いてあんだけ……」

* 注意：本当でしたが現在は「おつのこんば」とされている。

タトバ「俺、主役なのに……基本フォームなのに必殺技全然使われ
なかつたんだよ。

つていうか前代未聞だろ！？ 必殺キック初使用が不発つ
て！？

一回目はバースと同時使用でどっちが倒したかよくわからん
なかつたし！

最終回では決まつたと思つたら相手無傷つて！』

記者3「いや、あれはドクターの介入があつたからで……」

タトバ「それにしたつて無傷はないでしょ！？

同じ不遇といわれるメダジャリバーはちゃんと敵撃破して

るし活躍してやがった。

ゲームでは俺の必殺技の定番になつたばかりか。
ガブリューとの「刀流なんてかつこことじやがつて…

…裏切り者め！」

記者1「い、いや、それはすべてタトバさんといふ基本のコンボだからこそ映える光景では？」

それに映画ではタトバキックで何体も敵倒してたじやないですか？」

タトバ「ああっ、最初に雑魚どもを一掃した時と最後のオールコンボで他の連中と一緒になー！」

記者1「そ、それだけじゃありません。

天下の將軍をまとも共闘したライダーなんてタトバさんだけですよー！」

タトバ「あれ思いつきり引き立て役だったじやないか！」

あの時代の武器で打倒できる雑魚敵に負けかけるとか…
ホント、俺なわけない！」

記者2「（相手は吉宗、つーかマッケンだからなあ…仕方ないよ）

「

タトバ「俺は、俺は……単独で、主役ライダーの基本コンボとして、恥ずかしくない活躍をしたかったんだあつーー！」

記者1「タトバさん……」

記者2「（うわあ、めんどくさいこのフォーム……）

記者3「基本ゆえの苦悩か……わかる、わかるぞ…」

記者4「…………では、タトバさんはそつなつたのは何が原因だと思
いますか？」

タトバ「映司だ……映司が俺をつまく使えないのが悪い…」

記者2「（中の人批判しちゃった！？）」

記者1「確かに、彼はすぐに他のメダルの能力に頼る所があります
たね」

記者2「（あいおい、同調すんのかよ！？）」

タトバ「俺もね、そりやつてメダルチーンジしていくのがオーナーの醍
醐味だと思います。

けどさ、第一話ぐらい活躍したっていいじゃない。
なのに敵撃破したのタカキリバジヤン。

トラなんてカマキリより使いづらいなんていわれて、
せっかくのバッタレッジもあいつ滅多に使わねえし。

……800年前の王様はもつとうまかったのになあ……」

記者4「つ、800年前！？ 当時の話を詳しくお聞かせください
ませんか！？」

司会「まことに申し訳ありませんが会見はここまでとさせていただ
きます。

タトバコンボさんはこれにて退席となります。盛大な拍手を
！」

サゴー^ゾ「タトバ、帰る、すぐ帰る」

シャウタ「行くわよ、ほら立つて」

タジヤド^ル「基本コンボがかっこ悪い姿を見せてんじゃねつ！」

タトバ「え、うわっ、ちょっと離せー！ サゴー^ゾやめろ、本気で掴むな潰れる！」

シャウタもムチ使うな、ビコビコする……

タジヤド^ルつ、てめえだけの手は借りな、熱づ！？」

記者4「ちょっと、これからがいとこじやない！」

記者3「まだ……最終回の感想もひつひないんだけどなあ」

記者1「タトバさん、頑張ってください……おれ、ずっと応援してますからーー！」

記者2「…………（これ、どうもめたり！）スクリに怒りなすにすむかな？」

フォーゼ「…………え、このあと俺が出て番組紹介？ マジ？」

タトバ「あつ、お前は……」

シャウタ「わやつ」

サゴーズ「あつ」

タジャドル「うわつ」

タトバ「フォーゼ！」

「……で余ったが百年目……はやぶさ扱いされた仕返しをいまじで……」

ガタキリバ「……終盤の出番がなかつたうえに、

オールコンボのための踏み台にされるよりはマシな扱いだらうが！」

タトバ「わつ、反則！ 分身して押さえ込むなんて反則だ！ 離せえつ！」

今こそ俺はタトバキックで勝負を決めるんだああつ……」

フォーゼ「ああ、えつと……」

司会「それではフォーゼさんの登場です

フォーゼ「……来週から始まる仮面ライダーフォーゼ、よろしくな
！（キラリー）」

フトラータ「僕の……出番は？」

月見「コア「あつません」

ブトテイラ「ガ…」

月見「コア「あつません」

プラカ w

月見ココア「あなたは映画だけ！」

ちゃんちゃん

「終」

（後書き）

俺には「メテイは無理だと思つ。それを再認識したよ。でも後悔はしない！！

ちなみに非常にどうでもいいが記者たちの裏設定も公開しておく。

記者1：平成ライダーのファン。現在タトバの大ファン。ただしフォーゼが始まればフォーゼに移る。

記者2：ライダーに興味がない。上司命令で仕方なく来ている。

記者3：中途半端なライダーファン。知ったかぶり。好きなのは龍騎。大久保 大介に憧れている。

記者4：ライダーには特に思い入れはないが真面目。記者として真面目。

レポーター：一応この様子はTV中継されていた、といつてい、のためだけの登場。ライダーに詳しくない。

司会：話を終わらすために突然出てきた人。常に笑顔。何しても笑顔。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2404w/>

オーズ最終回記念・特別記者会見

2011年11月10日20時11分発行